安全な輸血療法実施に向けての取り組み

◎古澤 絵美[1)]、上野 麻生子[1)]、国井 アツ子[1)]、阿部 まゆみ[1)]、佐藤 朋子[1)]、長岡 純二[1)]
山形市立病院 済生館[1)]

【はじめに】安全な輸血療法を実施するためには、正しい知識・手順が必要とされる。そのため当院では輸血ラウンド、輸血の安全管理研修会、勉強会などを行っている。今回、新たな方法の輸血ラウンドおよび各科合同での緊急輸血シミュレーションを行ったので報告する。

【方法】1）輸血ラウンド：対象は内科外来、各病棟（内科、消化器内科、整形外科、脳神経外科、外科）の輸血実施部署で、検査技師が製剤と共に看護師に同行し、輸血室での製剤の受け渡し・搬送・医師確認・輸血準備・輸血実施などの 19 項目について輸血療法マニュアルを順守しているか確認を行った。2）緊急輸血シミュレーション：参加者は外科医師、麻酔科医師、救急室看護師、手術室看護師、検査技師で、関連部署としてそれぞれ救急室、手術室、輸血室に配置し、出血性ショックで救急搬送された患者の緊急輸血を想定し行った。

【結果】1）輸血ラウンドは各部署でタイマーを使用し、きちんと時間を測り観察するなど、輸血療法マニュアルの輸血実施手順に沿い概ね適切に実施されていた。2）緊急輸血シミュレーションは手術室で血液製剤の受け渡し時にスムーズに対応できなかった場面もあったが、緊急輸血時のマニュアルに沿った対応はできていた。

【考察】以前の輸血ラウンドは輸血療法委員会の医師、看護師、検査技師で各部署に日時を事前に知らせ、看護師に聞き取りをする方法で行っていた。今回の輸血ラウンドでは検査技師が同行することにより、現場での輸血実施状況がわかり、その場で指導したり、患者や看護師の疑問に迅速に対応をすることで、より安全な輸血療法が実施できると考える。また、緊急輸血シミュレーションは各科合同で行ったことで、率直な意見交換ができ、疑問や問題点を共有することで各部署での業務改善につながったと考える。

【結語】当院での安全な輸血療法実施に向けた取り組みとして輸血ラウンドと緊急輸血シミュレーションの実施状況を報告した。今後も継続し、より安全な輸血療法に貢献していきたい。

【連絡先】023-634-7117